

## この一年を振り返って

看護部教育担当 益塚 典子

### はじめに

看護師免許取得後昨年まで病棟で勤務させていただいてきましたが、今回初めて臨床現場を離れ、教育担当という役割をいただきました。今まで、スタッフや周囲の方々に支えられながら無我夢中で、患者中心の看護実践を目指し、日々過ごしてきました。今回、教育担当というポストに異動になったのは、

①今までとは少し異なった位置から臨床現場を見て、事実を見据えた上で、当院で目指す看護実践ができる人材を育成する。

②自ら学び、自己研鑽する機会を与えていただいたものと感じております。初めて経験する事ばかりで、戸惑いと困惑の中で周囲の方に支えていただきながらの一年でしたが、振り返りをしたその内容と次年度に向けての課題を述べていきたいと思ひます。

### 活動の内容

平成20年度教育委員会目標である「看護係長、リーダー（レベルⅢ以上）看護師の研修を充実し、育成を図る」ということを目指し、研修計画に沿って、研修を行いました。

#### (1) 創傷ケア・ストリーケア専門コースセミナーについて

今年度から開始したWOC吉田看護師を講師にした専門コースは、①ストリーケアコース ②創傷ケアコース共に予定した研修内容を全て終了し、全研修会を受講された方に、岩城看護部長より修了書をお渡し致しました。

①ストリーケアコース受講者は18名、  
②創傷ケアコース受講者は24名で近郊の病院・施設合わせて10箇所の施設に所属する看護師の皆さんに受講していただきました。自分の時間を投資しても学びたいという強い意志を感じました。また、多忙な中2つの専門コースの講師として、講

義の準備・実施を担って頂いたWOC吉田Nsに深く感謝したいと思います。

この研修を受講して得た知識・技術を専門職として各々の職場で実践し、患者さんに還元していただくことがこのセミナーの本来の目的と考え、6月に事例発表会を予定しています。近郊の病院・施設より、自らの意思で集まったセミナー受講者が活躍され、各々の施設において実践される看護の質が向上することと期待しております。このセミナーは、今年度も継続して行う予定になっております。

#### (2) 固定式チームナーシング研修

この看護方式を導入し5年が経過し、看護実践するための道具だが、各々の部署における基本部分の理解度や進め方の違いがあると感じていました。そのため講師をお招きし、各部署における現状の把握と部署で抱えている課題に対して助言を頂く機会として研修を行いました。前年度教育委員会で予定していた研修内容とは異なったため、準備をした担当医委員及び多忙な中、資料作成した現場スタッフにはご負担をかけることとなりましたが、今一度固定式チームナーシングとは何なのかを考え、互いの部署の現状を知る機会となったと考えます。次年度は、固定式チームナーシングにおけるチームリーダーの育成と看護チーム目標と活動・評価についての発表会を中間と年度末に行い、責任ある看護実践できる職場作りのため継続学習していきたいと考えます。

#### (3) 人を癒し、助けるためのコミュニケーションスキルアップセミナー

リーダーシップⅡ研修の講師としてお招きした後藤啓一先生との講義を通して受講者が一番求めている部分に手が届いていないと感じ、またチームワーク作りや職場内における人間関係調整能力に対する力（技術）を身に付けたいと考え、自分の時間とお金を投資しても、自ら学びたいと希望するスタッフ（17名）を対象に継続セミナーを行っ

ています。自己を見つめ、相手のあるがままを受け入れるために必要な知識・技術を修練しています。今後も継続し、その学びを通し、受講者全員で何らかのアプローチをし、各々の職場に還元していきたいと考えています。

### 次年度に向けて

次年度は、対象となる患者さん・スタッフの皆さんから情報（評価）を得て、そこから求めている部分に応える事ができるように計画・活動したいと考えます。

- ①当院における教育ニーズ・学習ニーズを調べ、その結果に基づいた研修プランを作成する。
- ②患者満足度調査を通し、当院で提供している医療・看護の質の評価を得て、そこから改善点を見出す。

③固定チームナーシング看護方式を通し、看護チームリーダーを育成する

④研修で得た知識・技術を各自の担当する役割（委員・講師等）を通して職場に還元する。

### 最後に

看護部の理念である「心のこもった・信頼される・安全な看護」を提供できる看護師を育成し、看護師は生き活きと充実感を感じ、患者さんは笑顔で心温かくなり、満足していただける看護実践できる病院を目指し、業務担当参事とも力を合わせながら教育担当として努力していきたいと考えます。多忙な中、研修受講していただいた皆さん、この一年間学習する機会を与えていただき、未熟な私を支えていただいた全ての方に感謝いたします。